

演 歌

小倉 憲一 (平成14年卒)

樽味会の皆様方におかれましては、時下益々ご活躍のことと拝察申し上げます。本年度は、樽味会六十周年記念式典が盛大に執り行われましたことを、心よりお慶び申し上げます。また式典におきましては歌わせて頂けるという光栄な機会を作って頂き、感謝至極に存じます。

さて私事ではございますが、1999年秋に作曲家船村徹先生の内弟子として、十九歳で松山より上京致しました。切っ掛けは船村門下、三宅広一先生によるスカウトでした。丁度その際の担当教官が福島先生で、以来九年間の内弟子生活を送らせて頂いております。朝は六時頃起床し、炊事、洗濯、掃除、庭木の手入れ、買い出し、愛猫愛犬の世話、パソコン管理、付き人任務など、やるべきことは沢山あります。住み込み生活を通じ、先ずは人間教育からというのが船村哲学なのです。通常レッスンなるものはありません。「芸は盗め」ということです。修行中の帰省は難しいながらも、船村先生とご一緒に幾度か帰県し、福島先生をはじめ、小松学長、加戸知事とお目通りを得ることができました。

私も愛媛大学、そして樽味会の出身者として母校の名に恥じることなく、人間らしく、素直で自然体に「日本人が忘れてきた情緒を表現できるような歌手」を目指し、精進してまいる所存でございますので、今後とも倍旧のご支援を賜ります様、心よりお願い申し上げます。最後になりましたが、皆様の御多幸を心よりお祈り申し上げます。

